

令和7年度 第1回 八千代市立郷土博物館協議会会議録

会議名 令和7年度第1回八千代市立郷土博物館協議会

日時 令和8年1月27日(火)

開会 午後2時00分

閉会 午後3時50分

会場 八千代市立郷土博物館学習室

報告事項

- | | |
|---------------------------------|-----|
| (1) 令和6年度 八千代市立郷土博物館事業報告 | 資料1 |
| (2) 令和7年度 八千代市立郷土博物館事業報告(中間) | 資料2 |
| (3) 令和8年度 八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子) | 資料3 |
| (4) 八千代市立郷土博物館の登録博物館の継続について | |

視察

- (1) 令和7年度 特別展「くらしのうつりかわり展 ～変わる暮らしと団地の誕生～」

出席者

委員	久留島 浩	人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 名誉教授 前国立歴史民俗博物館長
	齋木 健一	千葉県立中央博物館 主任上席研究員
	八巻 ^{やまき} 憲一	八千代市子ども会育成連絡協議会会長
	小林 弘治	学校法人 聖書学園 千葉英和高等学校 非常勤講師
	目黒 英樹	八千代市立勝田台南小学校長

事務局	教育次長	石原 雄二
	文化・スポーツ課長	大野 光弘
	館長	中村 元重
	主査	保田 敦
	主査補	安藤 茂和
	主任学芸員	宮下 聡史
	学芸員	吉田 赳
	資料調査研究員	常松 成人
	資料調査研究員	野中 政博

公開・非公開 公開

傍聴人定数 5名

傍聴人 0名

会議録

開会

○**保田主査** 皆様本日は、お忙しい中ありがとうございます。ただ今から、令和7年度第1回八千代市立郷土博物館協議会を開催させていただきます。八千代市立郷土博物館協議会運営規則第3条第2項により「会議は委員の半数以上の出席がなければ開くことができない」となっており、本日は5名全員の委員の皆様の出席をいただいておりますので、会議として成立しております。なお、当協議会は、八千代市審議会等の会議の公開に関する要領第3条に基づき、公開対象となっておりますが、本日、傍聴される方はいらっしゃいません。

まず、資料の確認をいたします。委員の皆様には事前にお送りしておりますが、机上にも用意してありますので、そちらをご確認いただけますでしょうか。まず、会議次第、資料1、資料2、資料3となります。よろしいでしょうか。不足等ございませんでしょうか。

ありがとうございます。では、本来でしたら、八千代市教育委員会嶺岸秀一教育長から、ご挨拶を申し上げるところでございますが、本日は別の公務で不在のため教育次長よりご挨拶をお願いいたします。

1 教育次長あいさつ

○**石原教育次長** 石原です。よろしく申し上げます。

令和7年度第1回八千代市立郷土博物館協議会の開催にあたりまして、本来であれば、教育長から、ご挨拶を申し上げるところでございますが、現在、友好都市であるタイ王国のバンコク都へ訪問しており、不在でありますので、教育長に代わりまして、私より、ご挨拶申し上げます。

委員の皆様におかれましては、ご多忙の中、本協議会に、ご出席いただき、有難うございます。

さて、近年では、全国各地において、大きな地震や想定を超える大雨や火災など、様々な災害が発生しており、歴史的な資料も影響を受けてしまうことも懸念されることから、資料のデジタル化を進めることが重要となってきております。

当館においては、現在、千葉英和高等学校の生徒や卒業生、郷土歴史研究会等の皆様の協力を得ながら、古文書資料のデジタル化について作業などを行っています。

今後も当館では、そのデジタル化作業を進めるとともに、その他の博物館を取り巻く様々な課題について対応を進めていきたいと考えております。

本日は、「くらしのうつりかわり展、～変わる暮らしと団地の誕生～」の視察もあるそうで、例年の衣食住の生活の変化を基本テーマに、今回は昭和30～40年代から始まる本市のベッドタウン化につながる、住宅団地造成時の様子を伺える資料等を展示しているそうなので、その点も含め、ご覧頂ければと思います。

最後に、本日は委員の皆様から色々な立場から活発なご意見をいただきたくお願い申し上げ、あいさつとさせていただきます。本日は、よろしく申し上げます。

○**保田主査** はい、ありがとうございます。引き続き、本協議会の委員長である久留島委員長よりご挨拶をいただきたいと思っております。久留島委員長お願いいたします。

○**久留島委員長** 久留島でございます。よろしく申し上げます。

私も博物館を退いてから大分経つんですけど、資料ネットとか資料の救済活動はまだ続けておまして。その話は今日はする機会はないかと思っておりますけど、千葉県内でも成田空港の第3滑走路なんかそう

ですね。やっぱり、かなりの資料がなくなってしまうというのが現状の中でですね、資料レスキューを少しさせていただいております。今日はよろしく願いいたします。

2 委員・事務局紹介

○**保田主査** はい。ありがとうございました。それでは、本日ご出席の各委員の皆様の紹介を、させていただきます。(久留島→斎木→目黒→小林→八巻各委員の順に紹介)

ありがとうございました。引き続き、事務局の紹介に移りたいと思います。

(石原教育次長→大野文化・スポーツ課長→中村館長→宮下主任学芸員→吉田学芸員→常松資料調査研究員→野中資料調査研究員→安藤主査補の順に紹介)

最後に司会の保田です。どうぞよろしく願いいたします。以上が事務局の紹介となります。

ここで、石原教育次長ですが、この後、別の公務がございますので退席させていただきます。

3 議題

○**保田主査** それでは、議題に移りたいと思いますので、会議の進行を議長の久留島委員長にお願いいたします。

○**久留島委員長** 本日は委員の全員出席ですので、令和7年度の第1回八千代市立郷土博物館協議会が成立しているということをご報告いたします。それでは、議案の事項についての資料は、事前に送られておられました資料をご覧になって来ていますので、簡潔に進めさせていただきたいと存じます。

まず議題1として令和6年度事業報告が、それから議題2の令和7年度の事業の中間報告がございました。基本的にご覧になっていると思いますけども、まず、1と2の説明を事務局にお願いしたいと思います。

(1) 令和6年度八千代市立郷土博物館事業報告

○**中村館長** 令和6年度の八千代市立郷土博物館事業について報告いたします。

それでは配布資料1の項目2資料からご報告します。①収蔵資料は民俗資料や写真資料等が全部で47, 252点の収蔵数でした、②資料の修補は定期的に修補を36回行いました。③図書資料は他市等から寄贈された図書類を、新たに260冊追加しました。

3調査・研究については、市内の民俗行事の調査を中心に12回実施しました。

4展示については、①常設展示は新川流域を中心とした八千代の自然・歴史・文化・産業を常設展示室にて行っていますが、説明パネルの一部を変更しました。②企画展示は八千代誕生70年・新川開削300年記念企画展「水とともに～睦村の歴史～」を実施しました。③特別展示は秋の収蔵品展「祝う心、祈る心―結婚・出産・子の成長―」と「くらしのうつりかわり展 ～衣食住と学～」の2つを実施しました。それ以外にも④ロビー展示として、新たに八千代市に残る伝説を題材とした八千代市立文化伝承館で作成した紙芝居を展示した「紙芝居展示」等の4つを実施すると共に、⑤郷土博物館で活動している同好会連携展示として、3つの作品展示を実施しました。

5学校連携については、小中学校の出前授業や来館見学等で54件の依頼がありました。

6市民学習の支援については、市民学習の支援として様々な講座や体験、解説会、観察会等を行いました。代表的なものとして企画展の内容の解説会や講演会、古文書に親しむためのレベルに合わせた古文書講座、八千代市の自然を学ぶ自然観察会、そして子ども向けになりますが、昔遊び体験や、モノ作り体験等を実施しました。

7 地域協働については、東京成徳大学との連携した「伝統装束体験」、公民館や図書館と連携した各種講座を 8 回実施する事が出来ました

8 広報については、引き続きホームページや広報やちよ等での情報発信を行いました。

9 決算額については、歳入では令和 5 年度より 45,055 円の減となっております。主な理由としては物品設備利用収入については、講座で参加者負担となるテキストの印刷枚数の減少によるもの、有価物売払収入は郵送などによる八千代市史の販売数が減った影響と考えられます。

歳出では郷土博物館運営事業として令和 5 年度に比べると大きな変化は有りませんでした。郷土博物館維持管理事業については、需用費の修繕料においてトップライト開閉装置いわゆる排煙装置の修繕や学習室の暗幕修繕等が完了した事や、委託料の電気工作物や空調機等の保守点検が博物館管理から市役所、資産管理課の一括管理と変更となったため前年度に比べ決算額の減となっております。また工事請負費としては郷土博物館の木製通路が経年劣化により留め具が露出してしまい車に影響が出ていたことから木製通路からアスファルト通路への改修工事を実施したことから前年度に比べ決算額が増となっています。

令和 6 年度 郷土博物館事業報告は以上です。

(2) 令和 7 年度八千代市立郷土博物館事業報告（中間報告）

○中村館長 引続き令和 7 年度の八千代市立郷土博物館事業（中間）について報告いたします。

それでは配布資料 2 の項目 2 資料からご報告します。①収蔵資料は民俗資料や写真資料等が 1 2 月末時点で、全部で 4 9, 1 5 1 点の収蔵数でした、②資料の修補は定期的に修補を、2 7 回行いました。③図書資料は、新たに 2 1 0 冊追加しました。

3 調査・研究については、1 2 月末時点で地元の民俗行事の調査を 7 回実施しました。なお詳細については、本日お配りした市内民俗行事調査資料を確認ください。

4 展示については、①常設展示は説明板の一部を変更しました。②企画展示は「病をのりこえて死とまじないと八千代のひとびと」を実施しました。③特別展示は「くらしのうつりかわり展 ～変わる暮らしと団地の誕生～」を実施しました。それ以外にも④ロビー展示として、季節展示とミニ展示の 2 つを実施すると共に、⑤郷土博物館で活動している同好会連携展示として 3 つの作品展示も計画しています。

5 学校連携については、小・中学校の出前授業や来館見学等で 1 9 件の依頼がありました。

6 市民学習の支援については、市民学習の支援として様々な講座や体験、解説会、観察会等を行いました。今年度も昨年に引続き企画展の内容の解説会や講演会、古文書に親しむためのレベルに合わせた古文書講座、八千代市の自然を学ぶ自然観察会、そして子ども向けとなる昔遊び体験や、モノ作り体験等も実施しました。

7 地域協働(きょうどう)については、令和 6 年度に引続き「伝統装束体験」の開催を予定しています。

また公民館や図書館との連携として、講座や現地解説会等を実施し公民館等関係機関との連携を強化しました。

8 広報については、引き続きホームページや広報やちよ等での情報発信を行いました。

なお予算については、令和 7 年度の歳入は令和 6 年度に比べ特に変更はありません。歳出に関しては郷土博物館運営事業の委託業務として八千代市指定文化財の墨書土器 1 点の複製業務委託を引き続き予算要望しましたが予算化できませんでした。博物館維持管理事業についても、令和 6 年度に工事請負費として敷地内に電気を引き込む際に必要な高圧ケーブルの更新工事等の緊急性の高い工事が完了したため予算はつきませんでした。

令和 7 年度 八千代市立郷土博物館事業（中間）の報告は以上です。

私の方からの概要説明は以上となります。代表的な企画展の説明として、令和 7 年度に実施した企画展を、

吉田より説明。その後、学校連携事業を宮下より説明。講座等の実施状況を常松より説明。

最後に資料整理の状況について、野中より説明いたします。

○吉田学芸員 吉田より、今年度の夏に実施した企画展について御報告いたします。

令和7年度は、「病をのりこえて 死とまじないと八千代のひとびと」と題しまして、7月19日（土）から10月13日（月・祝）の日程で開催いたしました。開催期間中の開館日は、のべ76日で、3,036名の方にご利用いただきました。展示は、コロナウイルスの流行を踏まえ、過去に人々を襲った病気や、病に関する信仰や行事に関わる資料を展示し、“コロナ後”の世界をどう生きていくのか、考えるきっかけを提供する、というものです。

関連イベントとして、企画展会期中は、コロナ禍で流行した妖怪、アマビエの姿を模した、当市のイメージキャラクターであるやっちのぬりえをロビーに設置し、来館者の方に提供することで、コロナ禍におけるアマビエを通じた社会の連帯を体験するという参加型の展示をおこないました。ぬりえ作品は、のべ68作品が展示されました。また、8月9日（土）からは、近代以降の民間医療に関する寄贈資料を元に、令和7年度博物館実習生が制作したパネルを、当館ロビーに展示いたしました。

関連講座として、8月24日（日）に第2回やち博講座、「一病息災 ～病を恐れ、病と生きる～」を開催し、34名のご参加を賜りました。会期中の7月27日、8月31日、9月21日の計3日間（いずれも日）、企画展の展示解説会を実施し、合計で24名の方にご参加いただきました。

以上。吉田より、企画展に関するご報告でした。

○宮下主任学芸員 今年度の学校連携事業及び研修等への参加状況についてご説明いたします。

学校連携事業としまして12月末時点で、市内小学校の来館見学10件、出前授業6件、市内中学校の職場体験3件で1,001名の受け入れを行っております。

内容としまして、5～6月は小学3年生の八千代市について、市内の土地の使われ方等についての学習が多く、10～11月にかけては小学4年生の郷土をひらくという単元で、新川開発の歴史についての学習及び2年生の町歩きでの来館見学が多い傾向にあります。

また、1月以降、3年生の市のうつりかわりについての学習を中心に、既に実施した物を含め来館見学3件、出前授業8件の実施を予定しております。

7月29日から8月8日にかけて学芸員資格取得のための博物館実習として3大学4名の学生を受け入れいたしました。

続いて、研修等への参加状況について説明いたします。

12月末時点で、自治体文化財担当職員及び博物館職員向けの研修7件に対し会計年度任用職員を含む延べ11名の職員が参加しております。研修内容としまして千葉県博物館協会主催のIPMに関する研修1件。千葉県資料保存活用連絡協議会主催の公文書に関する研修・施設の視察・IPMに関する研修が各1件。千葉県文化財課主催の建造物の保存・活用に関する研修1件。文化庁主催の文化政策に関する研修1件。東京文化財研究所が主催する文化財の保存修復・管理の知識・技術等に関する研修1件となっております。

私からの報告は以上となります。

○常松資料調査研究員 今年度の講座等の実施状況につきまして、私からご説明いたします。

資料2（令和7年度事業報告 中間報告）の2ページの6市民学習の支援、の項目になります。

①企画展等関連事業ですが、a)の企画展関連については、さきほど吉田の説明のとおりです。

b)の特別展関連では、「くらしのうつりかわり展～変わる暮らしと団地の誕生～」にあわせて、3ページ⑤の博物館上映会を実施し、20名のご参加をいただきました。また、⑧の子ども講座の4ページのc)にあります子ども体験教室を予定しておりましたが、当館は総選挙投票所にな

りますので中止しました。

3ページに戻ります。②のやちよの民俗行事は、ツジギリのワラヘビ作りを、下高野在住の市民を講師として実施いたしました。

③の古文書講座については、入門編としてa)のくずし字講座2回、b)初級編2回・c)中級編1回を実施いたしました。中級編には27名のご参加をいただきました。

④のやち博講座については、中世の板碑について、企画展関連、古墳時代の石製品をテーマに3回を実施し、あと1回は江戸時代のもめごとをテーマに実施予定となっております。

⑤は先ほどふれました。⑥の観察会は、a)自然観察会を八千代市文化財審議委員の稲田晃先生を講師に実施予定です。

b)の文化財散歩は5月に村上地区、1月に高津地区で実施しました。

⑦の体験講座はa)篆刻講座は篆刻同好会、b)植物標本づくりは花野会、c)竹細工講座は竹細工同好会のご協力を得ています。

⑧の子ども講座では、a)昔遊び体験、4ページになりまして、

b)の博物館シアター、これは語りの会やちよのご協力で行いました。c)の子ども体験教室は、竹細工同好会のご協力で行いました。土器作り同好会の協力で縄文土器作りを行いました。

d)の「竹と遊ぼう」は、やはり竹細工同好会のご協力によるもので、体験講座と同様ですが、3月に実施します竹細工同好会による竹細工作品展の期間中に関連事業として実施するものです。

⑨の地域における子どもたちの学習支援は、おもに市内の学童保育所に、紙飛行機や勾玉作り、昔遊びなどを提供しております。この事業は周知が進んできたよう増加傾向にあります。

⑩同好会の育成は、館に属する4同好会に活動の場を提供しております。そして、館事業への協力という形でご活躍いただいております。以上です。

○野中資料調査研究員 続きまして古文書の整理状況につきまして、私、野中から報告をさせていただきます。まず完了しているものなんですけども、勝田の松戸家文書。こちらはパソコン上目録の作成を終了しております、総数1,687点を完了しております。

その関係で令和7年度先ほどの中間報告のこちらの古文書総数が3万6,322点に増加しているということになります。今後整理封筒の袋書き作業というのがあって、それで本当に完結することになります。その次ですけども桑橋白井家文書というのがございまして、実はちょっと多くて袋詰め作業で、3,515点は完了していますけれども、まだパソコンの入力が75点で止まっております、こちらの方は引き続き、来年度も続けていきたいと思っております。

さらに教育次長からも先ほどお話しがありましたけれども、デジタル化についてですけれども、こちらの方は9月から試行錯誤しながら始まりまして、大体月1回のペースでやって参りました。

12月末までの成果が全部で158点デジタル化が進んでいるということがございます。この成果物につきましては、今館のパソコンのJPEGというところに入ってございまして、順次精査をしつつ、今後公開に向けて作業していければと考えております。私の方からは報告以上になります。

○中村館長 長くなりましたが、以上で(1)令和6年度事業報告、(2)令和7年度事業報告(中間報告)の説明となります。

○久留島委員長 ありがとうございます。

(委員に)事務局からご説明をいただきました件について、ご質問、それからご意見がございましたらお願いいたします。

では、私から。ちょっと気になったのが、去年、今年だけではないんですけど、統計資料見せていただいてですね。令和6年度館報の33ページ。平成の25～28年度がピークでその後はずっと減っていくわけですね。このようなある程度の年代を伸ばした統計資料がないと館の動向とかはわからないのでこれは非常に貴重だと思うんですけど。これ見ていると大体今1万2,000人ぐらい。企画展示も大体平均50人ってないですね。40人代。1日平均でやるのがいいかどうか別として、調べるとそのぐらいになっている。

去年の令和6年度でいうと、「水とともに」っていうやつは、あんまり評判が良くない感じがするんですけど、秋の収蔵展は比較的高い。そういう意味では毎年同じことをやっているわけじゃないんでしょけど、目新しい、新しい取り組みのものは比較的受けがいいのかなと感じましたので。今年も大変興味深い資料展示をされているんですけど、残念ながら1日平均40人行ってないですね。このあたりが宣伝の仕方なのかどうかと思って、どんなふうに宣伝されるのかなと思って見たんですけど、なかなか探しにくいなあ。だから、宣伝の仕方をもうちょっと考えないと来ないのかなという気がしています。来られた方の情報の評価というのは結構高いわけですから、やっぱりこれは足を運んで見ていただくと。やっぱり来てもらわないとちょっとしょうがない。この辺りが少し工夫をしていただくしかない。もうちょっと宣伝していくしかないんじゃないかなという気はします。それから、企画展はもうちょっとこう、何かこう、少し派手になった方がいいかなと思って予算を見ると、あまり予算がないっていう状況ですね。だからせめて、企画展には少し予算を、よその博物館から借りる費用ほとんどないですから、何とかそういうことを工夫してされると目玉ができるのかなというふうにちょっと思いました。

それから2つ目はですね、私は以前に申し上げたんですけど、やっぱり地域の子どもの学習支援の中では学校がね、結構きちっとやっておられると思うんですけども。学童保育所っていうのはやっぱりそういう意味ではこれから重要になってくるだろうと思います。私も子どもはずっと全部学童だったんですけど。やっぱりこういう博物館があって、何か資料を昔のおもちゃでもいいと思うんですけども、そういうものがあるってやっていただけるといいなと思っていたんですけど、増加しているということで、非常に良いことだというふうに改めて思いました。私の感想と意見ですけど、最初に申し上げました。(委員に)他の方もぜひどうぞ。

○**齋木副委員長** 博物館の調査研究のところですね、多分、実際にはいろいろなさっていると思うんですけど、この館報には毎年行事を行ってきたという記録しか出てないですね。

だけど、例えば、今回の団地の展示ですね。ああいうものでもきちっと下調べをなさってそれをやっていると思うんで。例えば今回の展示ではどのようにしていたのかを伺えればと思いますけれど、いかがでしょうか。

○**宮下主任学芸員** 今回のくらしのうつりかわり展に関しましては宮下が担当いたしました。団地についてはこの後また展示を見ていただいた時にお話ができればと思いますが。館の方で収蔵している資料の中では団地に関する資料が少ないものですので、その当時に開発した県の住宅供給公社への問い合わせですとか、あとは県の文書館の方で過去の届出の書類関係などの調査の方はさせていただいた形になります。あまり厳密な調査まではやっていないので、お恥ずかしいのですが、そういう形での資料調査を行わせていただいております。

○**齋木副委員長** はい。ありがとうございます。昨年の方の展示の方はその点はいかがでしょう。

○**吉田学芸員** 去年の7月の企画展を担当いたしました吉田から申し上げます。研究に関してなんですけれども、こちらは主に市の資料を用いていましたので、結構館に収蔵されている資料や或いは市史に掲載されている資料などから病に関するところをピックアップして展示の方に使わせていただきました。その他現在、コロナ禍のところにつなげるために、コロナ禍で病に関するど

のような、受け取り方があったのかという、意識調査のところはインターネット上の調査ですけど、そういったものを参考にしつつ、展示に活かさせていただきました。その他、市内の民俗行事の中で病に関するもの、過去のそういった民俗調査の記録なども当たりながら、展示に活かさせていただきました。そういった状況になります。

○**齋木副委員長** ありがとうございます。現在集められる資料というものはおそらく将来的に博物館として貴重になると思います。ですからコロナにしても、この間のコロナ禍の中で何があったってどんなものが出ていたのかっていう資料の収集とか。それから団地にしてもですね、まだ団地が現存していれば、その色んな調査ができると思うんですけど。過去のを引き出すという調査も大事ですけど、現在のもも未来に向けて調査して収集していくというあたり。おそらくなくなってると思うんですけども、今後にも期待したいと思います。よろしく願いいたします。

○**小林委員** ただいまお話出てました企画展ですね、非常にご研究されて、発表されているという。その成果をですね、常設の方に何とか取り入れることできないかなと常々思っているんですね。と申しますのは、常設展を全面的にリニューアルするという話は出てはいるんですけど、これまでも出ていたとは思いますが、なかなか年度の報告ですとか年度の計画等には触れられていない様です。ただ館報の方にはね、31号の15ページには、展示にそれぞれもう少し工夫しなきゃならないような趣旨の文言がございまして、そういう意味でマイナーリニューアルというわけではないんですけど、せっかくの研究成果がありますので、そういったものを展示できないのかな。ただ、予算を見るとですね、そういったいわゆる研究ですとか、展示ですとか、要するに博物館の根幹に関わるどころの予算化が余り組まれてないような、そんな現実があるようですが、そこをもう少し、何とかですね、お金を工面して、できるといいななんていうことを勝手に考えているところなんです。そんなんで、是非ですね小リニューアルと申しますかね。展示の方をしていただければありがたいなと思います。例えば八千代の市民がですね、これはどうしても知っておきたいなっていうところがね、たくさんあると思うんですよ。例えば村上遺跡群の話なんかは、展示には少しありますけれど、もう少しわかりやすく、それで歴博の村上の展示とは言いませんけれど、もう少し、アピールできるような提示があるといいなとかですね。

あと、墨書土器についてはですね、これは複製を製作してる場所なんですかね？

○**中村館長** 我々も墨書土器はやっぱり地域の特徴になるのかなと思います。まずはいろいろな資料の複製品とか作っていく中で、墨書土器をまずは市内の指定文化財として、全部ある中で、あと5点で一応全部揃うってかたちになるんで、まずはそれを全部作って1つの目玉にしたいなというところで予算要求をしている状況です。

○**小林委員** 予算化は計られていない？

○**中村館長** 予算要望はしているんですけど、その年によって予算が付いたり付かなかったりっていう形です。一気にやると何百万円という形になってしまうんで、少しずつでも進められるように1個とか2個でも要望するという形ですね。

○**小林委員** 資料に関わらずそういった予算化っていうのはこの何年かぐらいですね、過去を見ますとね。それぜひそこら辺のところを大いに頑張っただけだと思います。あと市民の人たちに見れば八千代の製鉄遺跡とか屠龍^{とりゅう}の話ですとか、そういったポイントになるところね、まだ市史なんかにはなかなか載ってないような、だけど研究進んでるだろうというようなことで、そういったところの、展示をですね、何とか工夫していただけるといいなと思っています。

屠龍についてはですね資料貸出の一覧表の中に、7点ほどの屠龍に関するものがあるというんですけど、これはどっから手に入れたんですか？個別になって申し訳ないですが、これ多分この世界の人たち

にとっては大事件だと思うんですね。

○中村館長 収蔵資料ですけど、コレクターの方から寄贈された資料や発掘調査のときの映像なんかとかそういうものもあります。

○小林委員 屠龍に関してはね、入間基地の修武台記念館と靖国神社の遊就館にしかないはずだと思うので、それはまた調べていただいて。

そのようなことで、八千代の人たちにとってですね、この地域の人たちにとって、重要な、知っておいてもらいたいと思うようなところをですね、企画展なんかを通じて展示の方にも活かしてもらえると博物館の教育効果が上がってくる。そんなことでちょっとその点もお願いしたいなと思っています。

○久留島委員長 (委員に) 他にはいかがですか？

○小林委員 博物館法の改正につきましてですね、それからずっと話出てるような皆さんのご挨拶の中にもございました、デジタルアーカイブ化の資料。これも、先ほどの報告の中では当館においても進んでるといようなことなんですけど、年次計画の中には、そのような文言はないんですけど。それは博物館として進めているというわけではなく？

○中村館長 博物館と千葉英和高校さん、それから民間の八千代市郷土歴史研究会さんという3つの組織で一緒にですね、デジタル化の組織を今作っております。その中で一応やってくつていう形になっているんですけど。今年度は実証というような形。実際に今やっている中で、例えば予算立てみたいなのを記す必要があるんじゃないかとは言われたんですけど、例えば1枚当たり何メガの画像を使ったら見られるのか、どれぐらいの工程をやるためには人がどれぐらい必要だとかそういう検証もあったんで、これは来年度についてはまだ予算が見えてないっていうことで、具体的には計画をしてないです。その中で、また、今年度の今実施していることを来年度実際にどういう形で進めましょうという再検証みたいなことをするという形になると思いますので、そこによってまた来年度どういうような形でいくかという話になるということで、具体的にはちょっとそういう話は進めてないですね。

○小林委員 デジタル化については、むしろ当館が先進的には進めていますか？

○中村館長 デジタル公開というのは、ちょっとできていないんですけど、いわゆるデータベース化するためのデータはある程度は、民俗とかそういうものはある程度進んでいるかなと思います。ただ公開するための手法については、昨年も私のほうからお話しさせてもらったんですけど、やっぱりクラウド化するとかいった場合に著作権とか個人情報の問題とかがあるので、そうではなくって当館に来てもらって、いわゆる外部と遮断されたパソコンで見てもらおうとか、そういういろんな形があるとは思っているので、そういう形も含めた部分で、いろいろ考えていきたいと思うんですけど、ちょっとデジタル化が進んでいるかということ、一部は進んでいるという状況で、他の部分ではちょっとまだ構想中みたいなところもあるという感じですね。

○小林委員 ちなみにパソコン関係で、ネットのアクセス状況なんていうのはわかりますか？

○中村館長 市のホームページのアクセス件数はでていますが、今はわかりません。すみません。

○小林委員 ありがとうございます。

○久留島委員長 よろしかったでしょうか。

では続いて来年度といいますか、令和8年度の事業計画のご説明をお願いいたします。

(3) 令和8年度八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子)

○中村館長 令和8年度八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子)について説明いたします。

令和8年度については、引き続き郷土博物館利用者や市民の方々への郷土理解を図るために、企画展示等の各種事業を開催すると共に、令和6年度から課題となってきた資料のデジタルデータ化について進めていきます。

2資料については、前年度に引続き市域を中心とした様々な資料の収集・保管・管理を行い、古文書などの資料の修補や寄贈された図書資料等を活用していきます。

また収蔵している資料の整理については、今年度も民俗資料の資料整理を中心として進めていましたが、令和8年度からは古文書のデジタル化も出来るだけ進めたいと考えております。

3調査・研究については、行事の開催状況の情報収集を行いつつ、調査研究や現地確認を進めていきます。令和8年度も引き続きロビー展示となる「やち博コレクション」を活用して調査・研究の進捗状況や成果も展示していきたいと考えています。

4展示については、企画展が1回となっております。それ以外の特別展示やロビー展示等の展示については、現時点では令和7年度並みに計画しております。

5学校連携については、出前講座や館内見学等に可能な限り郷土博物館全職員で協力しながら進めていきます。

令和8年度については、現時点では決まっておりますませんが、今年度に引続き高等学校や市民団体と協力して古文書のデジタルデータ化作業を継続していきたいと考えています。

6市民学習の支援についても、様々な観察会や体験・講座を令和5年度並みに計画していますが、博物館の資料整理や資料のデジタルデータ化作業が予定されていることから、進捗状況によっては講座減少も必要と考えています。

7地域協働(きょうどう)については、令和7年度に開催した、伝統衣装体験を今年度も引き続き実施する方向で計画しています。

8広報についても、前年度に引続き、ホームページや広報やちよ、SNS、地域新聞等を活用した情報発信を行っていきます。

9博物館協議会は来年度についても、令和9年の1月末から2月初め頃に1回を予定しております。

なお予算については、令和7年度に引き続き墨書土器の複製品作成業務委託等や資料撮影用にデジタル一眼レフカメラ、また防虫防除の観点から収蔵庫消毒業務委託を要望しております。

以上が議題(3) 令和8年度 八千代市立郷土博物館事業計画(案)(骨子(こっし))の説明となります。

○久留島委員長 ありがとうございます。ただいま事務局から説明がありましたので、それについて、ご意見があれば。

○齋木副委員長 先ほどのご質問とちょっと関連するんですけども、調査研究事業で、私がちょっと見た限りではですね、もう平成の頃からずっとこの民俗行事の記録というのは、おそらく、それはそれでいいかと思うんですけども、予算もとても限られている中で、調査研究事業がずっとこれだけしか出てきていないと、ちょっとマンネリ化しているんじゃないかなというふうに心配しまして。もう一度、今本当に他に失われつつあるものはないのか。よくみんなで知恵を寄せてですね、これ毎年やらなきゃいけないのか、他にもやるべきことがあるんじゃないかとか、考えてはどうか、というふうに思いました。ご検討よろしくをお願いします。

○久留島委員長 いかがでしょう？要するに現代の資料も含めてそういう資料調査が必要だと。何を残すかそろそろ考えないといけないですよ。私もできると思ったけど、見えてこないというのが確かなところですよ。そのあたりをどうされるかをちょっと教えていただければと思いますが。

○中村館長 そうですね。過去5年ぐらい前からの八千代市のいわゆる調査研究に関する費用の中では企画展の調査っていうのがほとんどで、例えば、講座のための調査とか屠龍のための調査もそんなに多くなかったという状況ですね。

齋木委員さんの方からも去年とか学校資料なんかどうぞぜひ行ってくださいっていうことと言われて、我々の方でも見に行ったりとかしているんですけど。その様な実際に他市とかに調査するような調査っていうようなものとか、機材を使っているような調査っていうのは予算的にできてないですし、時間的にもちょっと難しいという状況があったので、そういった意味ではそういう、今までやってきたのは民俗調査以外の部分を選別してある程度そちらにお金はなかなかちょっと難しいんですけど、時間を割くなり、マンパワーの方でも補われるような、ちょっと配慮したいなと思います。

○齋木副委員長 例えばアベノマスクを資料として取ってあるとかですね。本当にあのときに来てたポスター、パネル、掲示物そういうのを保存するとかその辺りはお金はいらないんですよ。だからその時に考えるっていうのが大事だと思います。よろしく願いいたします。

○久留島委員長 ネット上で上がっている他のところのコロナ展を参考にされたとちょっとおっしゃっていたような気がしますので。そういう実例を参考にされたら、今齋木さんがおっしゃったような、資料も市内にあるのではないのでしょうか。

○八巻委員 学校連携というか実はちょっと話ちょっとずれちゃうかもしれないんですけど、私、大和田小学校のPTAをやっている関係で校長先生と話した時に、小学校の隣に八百屋お七のお墓がある。それを、子供たちが知らないのはしょうがないというか、知らないんだろうなと思うんですけど、学校の先生たちに校長が八百屋お七のお墓、隣の寺にあるんだよっていう話をしたら、先生たちが知らない。これ先生たちが知らないと誰も教えられないじゃないですか。

その民俗行事とかも、いろんなところで、八千代ってハツカビシヤがあつてっていうのを学校の先生たちが知らない、じゃあ子供たちに誰が伝えるのっていうところは、伝わっていかないのでも何か学校の先生たちにそういうこと等を八千代のその民俗行事とかを伝える機会っていうのを、設けていただけると、子ども達に繋がって、子ども達が、地域として、郷土愛に繋がっていくのかなというところを感じました。

それと広報なんかもやっぱりホームページ等々でお知らせするという事になっておったんですけど、なかなか今の人達ホームページにわざわざ検索をかけて見に行くというのはない中で、八千代市もX(旧Twitter)^{エグザ}であつたりとかっていうSNSを結構最近市の方も積極的に使うようになっていて、この博物館として、SNSの利用等はどうお考えなのかなというところをちょっと、お伺いしたいです。

○久留島委員長 この2点いかがですか？かなり貴重なご意見だと思いますけど。

○中村館長 ハツカビシヤとかそういういわゆる八千代の民俗行事は博物館ではちょっとないんですけど、文化財班で1月だったらハツカビシヤがあるとかいうような形のパンフレットを作りまして、学校の先生とか、あと小学校の数くらい印刷して配ったりとかするようになっていまして、ちょっと親しみが持てるような取り組みをしているところがありますので、ちょっと変わってきているのかなというふうには思います。

SNSの方につきましてはですね、我々の市のホームページの更新した際に、Xなんかでもつけたりインスタにもつけられたりしますので、イベントのときは一応そういう形で付けて確かにインスタとかXの方が、皆さんよく見る機会があると思いますので、そういうものを活用して、広く皆さんに見てもらえるよう周知をしているところでございます。

○久留島委員長 教員の講座は夏休みに先生方の研修はやらざるをえないですよね。だから、そういう機会に民俗行事を教える講座を設けるとか計画してもいいんじゃないですかね。ほっといてチラシ等を配ってもだめだっていう話は私も分かっているの。残念ながら転校されるっていうか勤務替わられますよね。そうすると、自分の学区がわかってない先生いっぱいいるわけですよ。学区の歴史を学ぶっていうことから始めるっていうのは、学校を挙げて行くべきことだと本当は思っています。それをその郷土博物館が少し支援する仕組みがあってもいいんじゃないかなと思います。今、PTAの取り組みもおっしゃったように、親が知らないのしょうがないけど、先生が知らないのではちょっとこの先はないですよね。

○目黒委員 先ほど八巻委員から八百屋お七さんのお話が出て、本年は^{ひのえうま}丙午ということで、私もお正月始まったときにお話しさせていただきました。ただ、本当に今の子ども達もそうなんですけど、その根本が分かってない。八百屋お七って人ってどういう人だろうっていうのも正直職員もわからなくて、そこから江戸が火の海になってなんていう話を少しして。自分は宮城出身なんですけど、生まれてすぐこちらに来たんですけども。田舎に帰るとおばあちゃんが「知ってるか？」って。千葉の方に八百屋お七の墓なんかがあると、そんな話を聞いてました。それで自分が物心つく頃、私大和田小だったんですけど。なんか、もう親がね、あの裏にお墓があるんだよと言ってそれで見に行きまして、立派なお墓になってますよね。そんなんで、先ほど職員の話も出ましたけども、今の子ども達には想像力が乏しい。ただ、想像力を伸ばすには温故知新。古きを温ねてじゃないけども、まず、昔今までを知ろうというのが僕は基本だと思っています。そんな中で、本当に郷土博物館の方は、この前3年生がこちらの方に体験学習させていただいたんですけども。そのときに、ここの部屋を二分してこちらは八千代市のうつりかわり。私は何かね目が光っちゃいましたね。団地というのは、もう答えたくて。それは、日本初の団地は八千代台団地ですなんてもう言いたいんだけど誰もどこをなんて言って、そんなところから始まって、2クラスだったんですけど1クラスは大体40分ぐらいで体験学習ってことで外で、懐かしいっていうか、懐かしいっていうのも変なんですけども、昔の生活っていうことで、洗濯板これ私も覚えてるんです。小さい頃洗濯板見たことあるんですよ。ちっちゃい頃ですけど。その時に、うちはなんかね洗濯機の横に洗濯板があって、洗濯機で洗えばいいのになんで洗濯板あんのって洗濯板を指さして。それだけで落ちないのはこっちでやんなきゃだめなのよ、なんて言ってるなんて今思えば今いろんな洗濯機とかね洗剤が出てからあえて部分洗いなんてなかったのかもしれないですけど、昔はやっぱりねそんなところから始まってまだまだ洗濯機が出てから5年・10年ぐらいは一応板もあったのか、今はもう全くなりなくなりましたけど。久々に見て、子ども達が、ちょっと汚れたハンカチを持ってきてっていう、ちょっと汚れたって、結構子ども達気遣って本当に素直だから、なんか、結構なんかクシャクシャなのをみんな持ってきて、それで洗濯板でゴシゴシ洗ってあれ落ちないとか何とか言いながら、何かこんなふういろんなやり方ありましたけど。それとかあと火おこして炭自体もわかんなくて、そういうふう炭の熱さとかどうやって火がつくんだろうなんていうあれですよね。多分、今の若い人たちが子どもだけじゃなく、どうなんですかね。

20歳前後でも炭なんてあんまり見てないんじゃないですかね。それこそ炭火焼鳥とかいうね、本当に大人って飲み屋でわかるぐらいで炭の力、うん。それで火おこしから始まって、火熨斗ひのしって言って、それを乗せてアイロンかけ、平安時代からやってるなんて聞いて、うわ、そうなんだなっていう形でね。

すいません。ちょっと雑談になってしまいましたが、だから、やっぱり僕は、今、校長という立場でやらしていただいて、すごく思うのは創造する力はやっぱり、今までの伝統の力を引っ張ってこないと、さらに新しいものはできないんじゃないかなあなんて思ってた。そういう意味では、勉強しなさいっていうよりも、いろんなものを、まずはまねてみようかっていうようなことを職員に伝えて、そんな中で先ほど研修の話が出ましたが、ぜひぜひ、結構ね、話をすると職員の中でやっぱり歴史ですよ、歴史なんですよ。歴史が好きだっていうのがあるので、例えば歴史の、でもいろんな時代があるんで、その辺も含めて、何か子どもでもいいんですけども、アンケートみたいので、ちょっととっていただいてそちらがやりやすいようなのでいいと思うんで。アンケートの善し悪しもちろんあります。私も学校アンケートやっていいのもいっぱいあるんですけど、やっぱり何人か、ね、ありますよね？クレームじゃないけど、わかって。でも、それを肥やしにしようっていうのがあるので。ぜひ何かアンケートのような形で取ってそこから発想していくっていうのか。結構、よろしいんじゃないかなあなんて思ったりします。子どもでもね、え、こんなこと考えている子がいるんだとか、まれかもしれませんがありますので。ぜひぜひヒント1つには、そういう声も役立つんじゃないかと思しますので、ご協力しますので、ぜひそんなアンケートもちょっといただければ、すいません。以上です。

○久留島委員長　こちらの職員の方の負担にはなったりもあると思うんですけど、ただ、市民向けに何かをするのであればね、1回ぐらいは、先生に向けて何か発信をするっていうのはありじゃないかと思いました。(委員に)他に何かありますか？

今までのとこで言うと、私はやっぱり予算的な問題ってのは非常に大きい制約があるかと思いません。これ前に何度か申し上げていますが、今日も教育長さんいないし教育次長さんもないし。議会でどうやって誰が訴えてるんだろうかって、味方してくれる議員さんがいてもうちちょっと言ってくればいいなと思ったりもするんですけど。やっぱり、予算がちょっと少な過ぎて、しかも要するに大きなものから減ってるし、コピーのリース代とか、収蔵品管理システム、何が使われてるかわかりませんが、どのぐらいいくらかかっているかって考えるとこれが結構比率高いんですよ。もう少し何かその調査の費用とかですね、墨書土器複製品の製作を先に上げてやってもらったほうがいいと思うんですけどね。そういうことを、もうちょっと予算上の問題点を毎回申し上げてるんですけど。来年の予算がどれぐらいっていうのはやっぱりいっぺん出してみてもいいんじゃないのか。10年間で、どのくらい減らされてるのか。私のところの博物館も10年間で何億も減っていて、表にするのも嫌なぐらいなんですけど、でも、それをしないとどこを重点にするか決められませんよね。それがちょっと計画書の中に。さっきのご意見もありましたけど、デジタル化の計画、それから資料調査の計画を少し入れていただいてもいいんじゃないでしょうかね。具体的に少し入れてみてもいいんじゃないかという風に思いました。例えば加茂家だとかいくつか資料調査されますよね。杉山家だとかその概要を市民に何か宣伝するような仕組みもあってもいいのかなと。こういう資料が集まっているのかなっていうのが、これじゃわからないですよ。でもちょっとご負担になると大変ですけど、やっぱりそのどんな資料が今、市の方で江戸時代であれば発見されていて、

そこから何がわかるのかっていう。そういう資料調査報告等をどっかに入れていただいてもいいんじゃないかという気がしました。

それから写真の収集ってのは見てると枚数が増えてる気がしますが、着実に集まっていますか？

○中村館長 写真は前回寄贈してもらったお宅からまた新たに写真が出たということで、寄贈が増えたという形ですね。

○久留島委員長 これもよその博物館だと大体写真の収集から重点を置いて、もう今では昭和の写真も必要なんですよね。団地の話も当然ですけど。結構持っている方いらっしゃると思います。千葉市なんかは、確か70周年とかやるときには市民に公募して、写真を寄付してもらおう機会を何回か設けたりしたんですけど、それを八千代でも繰り返しやられてもいいんじゃないかと思うんですね。そうすると、そういう写真を応募された方は来られるし、広がっていくのかなとちょっと思いました。

資料調査の中には学校調査をぜひ、どう、現状でどうなるかっていうのが、教えていただきたいなど。つまり、学校の資料も結構使える資料が、私がやった限りでは結構千葉市内では明治6年ぐらいに作られた学校だと結構いい資料を持ってたりするんですよね。是非そういうことも含めてやっていただければいいなと思いました。

(委員に) よろしいですか？また最後にもう一度、どうぞ。

○斎木副委員長 実はこの博物館もとにかく人員が減ってですね、おっしゃる通り、そういったアンケートについてはなかなか人をサポートができない。それでですね、ちょっと宣伝になってしまいうんですけど、千葉県立中央博物館には講師派遣事業を無償でやっております。こちらに電話してですね、せっかくですから個人的に相談していただいて、例えば来年度・再来年度にうちの博物館の行事を見ればこういうことができるんだっていうのがわかりますので、植物のこういうの、昆虫のこういうの、魚のこういうのと、いろんなものがあって、こういうことできるんだっていうのがわかりますので、そのあたりは見ながらですね相談していただいて、来年と再来年の行事予定にそれを組み込んでやって、館の行事としてやる。講師だけタダで中央博物館から呼んできてやるというのは可能ですので、ぜひご検討いただければと思います。せっかく繋がってますので、ぜひご活用ください。よろしく申し上げます。

○小林委員 それは先生、博物館同士ってことですか？一般市民も対象ですか？

○斎木副委員長 いや、対象は実は市民でも学校でも何でも大丈夫です。公民館でも大丈夫ですし、NPOでも大丈夫ですし、何でも内容やってますので、ぜひご活用ください。

○久留島委員長 とても素敵な提案だと思いますのでぜひ。歴博もいろんなやり方とか提供できるものはありますので。資料管理の問題とかデジタル化もデジタル事業の専門家が何人かいますので、何かあればきいていただいてもいいと思います。

(4) 八千代市立郷土博物館の登録博物館の継続について

○久留島委員長 とりあえずそういうところでもう1つと。登録博物館の問題がありましたね。継続の問題ですか。そのことについてちょっとご説明をお願いします。

○中村館長 それでは議題のですね、八千代市立博物館の登録博物館の継続について、これ資料ないんですけど、一応ホームページで法改正したものを皆さんのテーブルに置かせていただきました。今回の博物館法の改正による博物館の登録作業については、令和5年4月1日施行の博物

館法の改正に基づく博物館の再登録の作業となっております。既に当博物館も登録博物館でしたが、今回の法改正に伴う登録は、博物館登録制度の見直しにより、都道府県教育委員会において、設置者が博物館運営に必要な経済的基盤を有すること、社会的信望を有することなどの要件や、博物館資料の収集・保管・展示及び調査研究を行う体制の基準に適合するかを審査することなどの、登録要件見直しがあったことから、すでに登録博物館だった施設においても、再登録から登録が必要となります。なお、法律の経過措置により令和5年4月1日から5年間は、既存の登録博物館は登録博物館とみなすとされており、千葉県の手続き上、各施設が順番に、一斉に手続きできないということで、順番に手続きを進めていることから、当館は来年度の登録となったわけです。我々といたしましてもですね、今後も登録博物館として継続していくことが必要と思っておりますので、では、来年度に向けて、手続きを進めて参りたいと考えております。以上です。

○久留島委員長 登録作業を進めていくのは当然だと思いますけど。(委員に)質問どうですか？

○小林委員 そうすると登録をするのは令和10年ということですか？

○中村館長 令和8年度中、今年の7、8月ぐらいには提出して、県の方で審査する方式で一斉に4年から始まったわけじゃないです。県内のすべての博物館を登録するので県が一年度で審査できる数が限られていますので、このエリアは何年度にやるという形でたまたまうちは8年度にやるというわけです。

視察

(1) 令和7年度 特別展「くらしのうつりかわり展 ～変わる暮らしと団地の誕生～」

○久留島委員長 それでは、議題1・2・3は終了しましたので、これから、令和7年度の特別展くらしのうつりかわり展の視察ということで、視察の準備をお願いします。

○保田主査 それでは企画展示室までご案内いたします。なお、視察終了後は学習室に戻りますので、お荷物はお席に置いていただいたままで結構ですので、よろしくお願いいたします。

(企画展を視察)

(視察終了後)

○久留島委員長 ありがとうございます。なかなかいろんな問題点があって考えて私自身は非常に面白く見させていただきました。(委員に)ご感想とか、少し最後ございましたら。

私が一番気になってるのは、八千代市の文化財地域計画は作ってるんですかね？確か5ヶ年計画か5期計画の中に入れてるって書いてあるけど、ここ、文化財保護条例できたのは70年代だったんですよね。それを援用してる感じでしたよ。保護条例って71年から変わってないんじゃないですか？

○中村館長 そうですね。ちょっと文化財班の方からちょっと聞いてないんでわからないんですけど。

○久留島委員長 そこと連携ないと目的がはっきりしないと。(○中村館長 わかりました)資料保存の問題だとか資料調査の問題だとかが全部そこと関わっていく気がしています。もう1つ言えば本当は観光立国だとかね文化観光行政何とかがあってやつが、この市に限って言うちょっと目玉がない感じがしますね。それを作ることがいいって言ってるわけじゃないんですけど。ないこともおそらくあると思うんで。これから地域間格差がバツと広がっていきますよね。ここはもう住宅で。東京から新しい住民が来ればいいと思ってるかもしれないけど、その辺りも含めてちょっと考えた

ほうがいいのかなど。展示に関しては、非常によくできていて面白かったんですけど、その後30～40年経ってるでしょう。どうなったんだっていう。それが本当は、いわゆる子ども達の経験になるはずなんですよね。だからそれを、何かつなげるようなテーマを考えていただくのがいいのではないかというのと。女性の描かれる姿がジェンダーの問題から言うと、洗濯板をやってる女性。要するにそういう家庭労働から女性が開放される家庭に冷蔵庫や洗濯機などの「三種の神器」のなかで洗濯機が一番ありがたかったという事例が結構あるんですけどね。そういうのを入れながらやると、家事労働から解放された女性たちっていうイメージがちょっと出てくる可能性もあるし。最後、本当に最後に言おうと思ったら、この場に女性が1人もいないっていうね。こういう委員会はあんまりよくない。より良くして、やっぱり女性が何人か入るだけで全然意見が違ってくると思います。展示も同じだと思いますけどね。最後堅い話言ってすみません。(委員に)感想などあれば。

○**齋木副委員長** 私は専門が自然科学だけでも、やっぱり古いものというか、歴史的なものが大好きで。先ほどの最古の団地の戸建てが1個だけ残っていて、しかもそこにお住まいの方と連絡が取れないという。私実は2年前に父を亡くしまして、そのあと遺産相続関係でいろんなものがあつという間に無くなっていくので、あんまりいい話ではないんですけども、先にご親族の方に連絡を取って、いざという時にはせめて計測をさせてくださいとか何か鉄道マニアみたいな話になっちゃうんですけども。日本で一番古い第1と言われるもの。最後の1戸だとすれば、それは後で、悔いのない何かを考えていただければと思います。

○**目黒委員** 今日は本当にありがとうございました。本当に展示物など見ながらお話するとやっぱり皆さん奥深いなとつくづく感じました。それなだけに、じゃあどういろんなものを残したり、先ほども出ましたけども、子ども達に伝えていくのかっていうのがポイントになると思います。子ども達はすごい素直なので、今の子は良い子も多いけども、根本的にそこはそうだよっていう部分が意外とお利口さんっていうか、いい子でも、うん違う違う、そこもそうなんだよって、それわかってなかったんだっていうことは結構多いんです。ですから、先ほどのチームにしても、今と全然違うし、どれが残っていったときに、子ども達は初めてその変化を知るっていうのが、それが、地域だけに限らずいろんなこともそうだと思うんですね。だから、自分なんか昭和の世代ですけどね、今よく昭和の世代はなんて言うけども、別にそんなに違和感ないんですが、今の子は昭和が異次元に感じる子もいるので、何かその辺を、こういう歴史を通して何か伝えていければ、そういう、形でお仕事をこれからもね、やっていただけると非常にありがたいなと思っております。今日はどうもありがとうございました。

○**久留島委員長** 一応これで議題について確認しますと、今回出されました議事については予定通り終了したっていうことでいいですか。最後に事務局から連絡事項などありましたら。

○**中村館長** 今年度で協議会委員の2年間の任期が終わりますので、また来年度お願いできるか、4月入ってからご連絡させてもらいますので、すみませんがその際は対応をお願いいたします。

○**久留島委員長** 私が退いて女性の委員の方にしていただいても結構です。どうもありがとうございました。それでは、これで閉会とさせていただきます。それでは最後進行を事務局にお返しします。

○**保田主査** ありがとうございました。本日はご多忙の中、令和7年度 第1回八千代市立郷土博物館協議会にご参加いただき、ありがとうございました。会議は以上になります。お帰りの際は、お忘れ物などございませんよう、お願い申し上げます。本日はありがとうございました。